

Title	3.研究教育活動, 3.6.外国人研究員
Author(s)	
Citation	霊長類研究所年報 = Annual Reports of the Primate Research Institute Kyoto University (2020), 50: 83-84
Issue Date	2020-10-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/254650">http://hdl.handle.net/2433/254650</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 共同研究協定

日本	財団法人名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館)		2009.7.3	—
マレーシア	オランウータン島財団	Orang Utan Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	ブラウバンディング財団	Pulau Banding Foundation	2010.11.1	—
日本	西海国立公園九十九島水族館 「海きらら」		2012.6.16	—
日本	日本モンキーセンター		2014.10.15	—
日本	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所		2014.1.22	5年間 (自動継続)
日本	新潟大学脳研究所		2015.8.1	5年間 (自動継続)
日本	中部大学創発学術院		2016.9.2	5年間 (自動継続)
日本	公益財団法人鹿児島市水族館公社 (かごしま水族館)		2016.11.1	5年間 (自動継続)

## 3.5 学位取得者と論文題目

### 京都大学博士（理学）

Duncan Andrew Wilson (課程) : Exploring attentional bias towards threatening faces in chimpanzees

(チンパンジーにおける恐怖顔に対する注意バイアスに関する研究)

若森参 (課程) : Evolution of the tail in the genus *Macaca* (マカク属における尾の進化)

田辺創思 (課程) : Developing novel techniques for primate neural network analyses by retrograde gene transfer with viral vectors (ウイルスベクターによる逆行性遺伝子導入を利用した霊長類の神経ネットワーク解析のための新規技術開発)

金侑璃(課程) : 多感覚統合による物体の質感知覚の脳内メカニズム

石塚真太郎(課程) : Kin structure of neighboring groups in the genus *Pan*  
(*Pan* 属における隣接複数集団の血縁構造)

### 京都大学修士（理学）

Louie Richard Ueno-NIGH : パーキンソン病モデルマウスセットの行動分析のための自動解析システムの開発

Tianmeng HE : 食物の堅さがニホンザルの咀嚼効率に与える影響

Andi ZHENG : 霊長類におけるニューロン種特異的な遺伝子発現操作法の開発

井藤晴香 : iPS 細胞分化誘導系を用いたニホンザル初期神経発生分子動態研究

Oh Jungmin : 霊長類側坐核ニューロンは接近回避葛藤下において意欲と価値を区別してコードする

木下勇貴 : 霊長類における体幹回旋運動と胸腰椎の機能形態学

徐沈文 : チンパンジーにおける写真映像と指示対象の対応づけ

TAN WEI KEAT : 霊長類レトロウイルスの持続感染に関する研究

## 3.6 外国人研究員

B Kubenova (チェコ 南ボヘミア大学)

(2017.11.1～2019.10.31)

受入教員 : MacIntosh Andrew

研究題目 : ニホンザルにおける乳幼児 handling および乳幼児とワカモノの社会関係の形成

- M Sigaud (フランス 所属・無)  
(2018.9.27~2021.4.26)  
受入教員: MacIntosh Andrew  
研究題目: 生息環境の悪化が絶滅の危機に瀕した霊長類におよぼす影響評価
- D Hillert (ドイツ サンディエゴ州立大学)  
(2019.3.19~2019.4.19)  
受入教員: 脇田真清  
研究題目: シンタクスの進化:サルからヒトのことばへ
- O Beasley (イギリス 所属・無)  
(2019.4.10~2019.8.31)  
受入教員: MacIntosh Andrew  
研究題目: ニホンザルにおける乳幼児 handling およびワカモノの社会関係の形成
- C Sarabian (フランス 所属・無)  
(2019.9.29~2021.9.28)  
受入教員: MacIntosh Andrew  
研究題目: チンパンジーにおける「嫌悪」を引き起こす認知的・生理的メカニズムの分析
- C Correia (イギリス リンカーン大学・リサーチフェロー)  
(2019.11.15~2020.11.14)  
受入教員: 宮部貴子  
研究題目: コモンマーモセットの表情に関する研究

### 3.7 日本人研究員・研修員

#### 日本学術振興会特別研究員(PD)

- 山本知里 (2017.4.1~2020.3.31) 受入教員: 友永雅己  
研究題目: ハンドウイルカにおける社会的知性に関する比較認知科学的研究
- 菊田里美 (2018.4.1~2021.3.31) 受入教員: 高田昌彦  
研究題目: 進行性パーキンソン病モデルサルを用いた、病態進行に伴う脳内状態変化の経時的解析

#### 福井工業高等専門学校インターンシップ

- 兼子翔成 (2019.8.26~9.6) 受入教員: 高井正成  
研究題目: 霊長類に関する研究

### 3.8 研究集会

#### 所内談話会

- (\*Asura International Seminar (Primateology and Wildlife Science)との共催)
- 第1回: 2019年4月17日(水)\*  
Cátia Correia Caeiro (University of Lincoln)  
“What’s your face telling me? A comparative perspective on measuring facial expressions across species”
- 第2回: 2019年5月16日(木)  
Mohammad Firoj Jaman (University of Dhaka)  
“Human-Primates Interactions and Co-existence in Bangladesh”
- 第3回: 2019年6月6日(木)  
川口綾乃 (名古屋大学大学院医学系研究科 細胞生物学分野)  
「発生期大脳における outer radial glia 誕生の分子機構」
- 第4回: 2019年6月14日(金)  
Wilson C.J. Chung and Megan L. Linscott (Kent State University, USA)  
“Hypogonadotropic hypogonadism: A model for understanding epigenomic gene transcription”
- 第5回: 2019年6月20日(木)\*  
Crickette Sanz (Washington University in St. Louis)  
“Comparative Approaches to Understanding Chimpanzee Cultures in the Congo Basin”
- David Morgan (Washington University in St. Louis)  
“Chimpanzee Behavioral Ecology and Conservation in the Ndoki Forest”